

ル 3
3759
2

門ル3
流3759
卷2

東海道名所圖會卷之二

目錄

石山寺
古觀圖
頼朝墓
龍藏院
行履堂
防合
葛浦
財門堂
岩間寺
田上不動
龍神祠
野路玉川
石津寺

佛舎
八葉巖
人師
二十八
社
經藏
源初
阿弥陀
紫式部
多影堂
勝南院
不勝院
小谷
僧院
石山寺
義平
石谷

御霊祠
勢田橋
建部神社
久橋
草津

山田石亭
琵琶湖
谷上川
陀羅尼谷
新宮明神
空明菴
東之門
古之門
新宮明神

立爪祠
鞭奇八幡
秀郷祠
月輪池
御霊祠
勢田橋
建部神社
久橋
草津



昭和42年12月12日
和田大作氏贈

常善寺

灰冢山

三上山

石部鹿鹽上神社

西寺

夏見

横田川

水口

大園寺

山上庚申

義朝首洗水

○土山

活人石銘

鉤古城

御上神社

金勝寺

東寺

日雲靈跡

岩根若水寺

水口神社

飯道寺

山口重成碑

田村明神

草津川

小野寺

新善光寺

妙感寺

鬼藏

英濃郡三滿宮

景清力鏡石

惠安寺

日村川

目川

梅本

石部

阿弥陀寺

平松村美松

遷善寺

義經腰掛石

松尾川

解汲

近勢園勝

琴捨山

泰宮道

○龜山

瑠璃光院

山寺赤人古蹟

追分 泰宮道

諏訪洞

岳阪親若

町屋川

天武天皇社

願證寺

鈴鹿山

八瀬川

○關

出羽臺

森下

範頼洞

國分古跡

日永

三重川

志成神社

○桑名

一本松

十念寺

鈴鹿園

琴之橋

惠蔭櫻

古馬屋

○庄野

石薬師

杖衝坂

安國寺趾

建福寺

西川店趾

名産白菓

長圓寺

光德寺

鈴鹿神社

坂下

地藏堂

布氣神社

白鳥塚

稚武彦祠

采女村

○四日市

那古真屋様

久田八幡

壽量寺

泡洲八幡



石山寺
東寺ヶ岸

勢田川

中江

東海道名所圖會卷之二目錄

東名神社 本社 母山祠	輪崇寺 本堂 寛永法皇宸經	御寶殿 觀音堂 什寶	大圓寺 佛眼院	不動院 最勝寺	向遠波口 伊勢海	朝祥岩 五社 勢尾山	津島波 八社 佐屋	甚目寺 八社 御宮	石波子祠 本堂 御宮	石波子浦 本堂 御宮	豐太閤御出誕古蹟
多度神社 本社 梅七社 長尾山	楊柳寺 金堂 鼓樓	法盛寺 金堂 鼓樓	赤須賀地蔵 五社 勢尾山	中臣神社 本社 御宮	津嶋天王 本社 御宮	黃津里 本社 御宮	及魂冢 本社 御宮	及魂冢 本社 御宮	及魂冢 本社 御宮	及魂冢 本社 御宮	及魂冢 本社 御宮



石光山石山寺

志賀郡石山小町 真言宗仁和寺御室小幡院
西園巡禮十三番札所

芳、し、ら、あ、は、も、と、り、の、月、も、ひ、う、と、を、を、あ、て、る

對月
香樓宴坐月明中一片冰心滿杏空
深夜秋風吹又起雲邊桂子落珠官

萬華

石山寺並集大意
天智天皇をたのみ大津の宮に在せし時慶雲の佳瑞ありけり御古乃

聖跡示しゆをてとて荒塚とさう押せ加藍の経營をたひ

至る故小縁起云 天智帝の御宇に山ありて紫雲乃にやまり

天皇あやみさひ勅使と遣して見せられたる山半腰八葉の巖石あり

奇雲をひさぐり多常成りせり誠天聖靈跡の揚地とて又實隆内府

勸進疏云樂々波大津の宮ありて先葉雲の瑞成ありけり地形乃

蓮座瓜志免しと云爾しとる一百の星霜と経く時機術純熟しとく

聖武天皇宸襟の志乃しとを祈甲く良辨僧正とて加藍と建立

せいのりむり上宮太子より歴代稟美の御持尊と八葉の巖石

安益一白代の皇祚と守護一萬世の勅願と禱をのり入とん

○本堂 天平勝寶元年己丑未長春傍に筆く基趾とて加藍を造立

てり久も兼曆二年二月一日圓禪の安ん置りて本尊を

甲入建久の便小鎌倉武衛頼朝と再興し

以荒蕪にやせし後豊臣秀頼との母堂院殿安民治地のお小加藍瓜修

額 當寺諸伽藍者江州北郡淺井備前守息女

○本尊二臂如意輪觀音 御腰内小籠に本尊長六寸の像ハ聖徳太子

とほりく小像と蔵申入る小百王の寶祚と祈り改更し

七ケ日多法會ありて教をあり故に御位位の初曆を

のあり延喜十七年尊の帝

八葉巖石 本尊の御坐あり金輪際

脇士 左龍金剛神 右金剛藏王二十八部衆
不動明王 弘法大師の化 阿彌陀佛 聖日の他今
普賢菩薩 今世尊院の御後房普賢院の本尊なり
五色佛舍利 今世尊院の御後房普賢院の本尊なり

弘法大師剃髮名跡 平供養師の觀賢傍正と俱ふ大師の廟窟に入らば
神鏡と傳ふ大師自著の番号あり
當寺の古金襴おろされ石山にせられ
後陽成院表相と莊嚴し
源氏間 源氏お指と傳ふ一筋の故より源氏の向と
石記云

式ハ右少弐原時朝臣の女上東門院の女房ありけり
 一条院の清伯母選子内親王よりけり
 七ヶ日ありけり湖のうきはくと見ゆ
 風情眼を遮りけり
 本尊小申せり
 今つたれを日本紀局と

源氏ハ一詞はけり非人間之所為不可説之事也
 又何人及之我朝之最上也
 又花きの序云
 和國の至寶ハ源氏物語也

石山寺什寶
 紫式部古硯
 世謂石山形

堅守
 守四
 守三

風藻空餘湖上秋
 泓澄春月水悠悠
 濡毫紫女今何在
 一片研池萬古留

鶴山烟維籠



天台四文と讀みかゝる事お倍ふつたぬりたゆめる事や

式アハ檀那院の贈僧正の許可と蒙りて天台一心之觀の血脈ヲ入り

のりてよりいふ事おま林院の幽閑と云ひて先なるものくゆ人ある事や

硯石 源氏の向の畫とて武アガ所持の硯石と云ひて源氏と云ひて

大般若經 今當寺の什寶なり

二十八社 當寺の鎮守之祭神伊弉諾尊伊弉册尊神日本磐音彦尊

經藏 當寺建立の後 孝謙帝勅して

二層多寶塔 建久の院將軍 興國卿の建事あり

願朝屋 寶塔の西廻り

觀月亭 當寺塔の北あり或ハ大觀亭又ハ觀月亭と云へり

鐘樓 當寺の地あり石と古説云は清らむ

御影堂 又ハ三昧堂或ハ法華堂と云へり

中央弘法大師 法堂ハ八徑の畫あり

當寺僧寶傳曰
良辨淡海百濟氏子母堂失於來樹下有僧史
已長而創聖武帝敬崇為帝師寶字四年初為
僧正帝未創東大寺鑄遮那銅像聚金山湖藏王
本邦未像薄入山持念變藏王示山金剛藏王
以就資銅像持念必可得黃金辨便尋至經廬安帝
地授如如意輪像此像益自聖德皇太子歷世土
所授持尊即六寸金銅像也己修念不幾自奧州
始貢黃金辨六寸大寶鐸益以靈地如詳載寺志
朝地中得五尺實鐸益以靈地如詳載寺志
辨以寶龜四年閏十一月十六日化云云

延喜の初年 聖德太子ありて
觀賢堂 觀賢堂ありて
近州志賀郡の人とあり相州之山寺の縁起あり相模の洞河原屋太郎
太史時忠の子ありて出誕の後二つ乳母ありて

石山
蜜符

かろ
見や
紅頭
かほのくれ
こま



山日大

新古今

かろの飛のやうな
よみゆき

のちこ

よろの量の
のほつん

ひうこあしぬ

茶の枕子

壬生を見



香泉



年



今奥
 奥田の
 朱々
 足々
 瀬の
 瀬の

山笠取

推多



洞岩

中しかくと
 あしてや
 岩の
 枯尾花
 くらん

國分山
 芭蕉翁
 住菴
 古蹟

剛子

蕉翁ありてその茶月と号く長明の方丈記を效く約住菴の記に
まれ一夏九旬より一石小一字が深多法美二十八品と書寫一里のワラズを
あけ先く碑とを修る其賃多糖菓とてその入量あれ換く其功を逆り人の
今おろしむは修石土中より出ると其記文の末に

先きのむ推の本もあり夏本立

は一句を遺しく閑素出棲の風流も着し生涯名利を棄て月雪小戯れ
中記中の社に近津尾八幡宮とて國分村の生土神とて武卒の所時嘗て
國分寺の廢しく本尊茶師佛に村中の道場あり又別保の茶師といふ
少くくの字に汲水をすもまた佐佐木あり推の本に伯夷が廢り換り味ら
膳前の城橋の勢多のそくさくが嶽の如佐房より東の方谷上へのはげた
千丈が嶽といふ岬の方ありといはゆるの高山千丈南千丈の二峯あり
袴腰千丈が嶽より一里南ありて勢田川よりあるるれど病もとも
そくと海々ん笠取山の石山と碓氷の中ありされは宇治山の喜撰ヶ嶽

洛北の朗誦谷芳聖の昔清水外山の方丈石をぞみか同日の禰の山居ありて耕を
釣月の隠逸あり

太神山不動寺

谷上山高峯あり又田上とも書ば人谷上不動と称は

本尊不初明王

智達大師の他長尺高山の茶創り法華經乃序午

田上川

勢田より谷上山へ也修業す漢川あり古参る勢田川の源を修る人田上山
田上里の古修業す後頼口の山居ありて中古修業より今もいふやうに

月影の田上川も流るれありそのをを修る人もみたり

旅神とる芦のたやの寒くれん瓜本とつむ舟いそくあり

うつ火の鬼もうけ成たり田上川乃わけはのそら

よみを三行しと修る夜もれ田上河みふも修り也

長明方丈記
修業の所ありて修業の所ありて修業の所ありて修業の所あり

後注
修業の所ありて修業の所ありて修業の所ありて修業の所あり



七のり
勢田橋
一名
五月柳橋

川
下
居

有難賣世人
皆龍宮ヨリ
出生ノ未ナ
喰フ可也
上ノ所

湖の
宮の
御
心
経
の
事
を
記
す



下河邊

秀郷
到龍宮





田上不動寺

谷

後頼卿
古蹟

田上

湖水

和舟の名所 湖 延小七十餘所あり

風はるまのの水海を晴く月かけ清く 沖津島山

まぐ波や五月照のぬれぬ夜浦をさむく ぬれぬ夜浦

五月の海や汀の子鳥をさむく ぬれぬ夜浦

少海やあてと秋さ初明み行のさぬれり乃 乃舟

月影もさてる浦の秋をれは沙やくのまは煙さみさく

湖の海や月の光は川ろへ波の花も秋をみえたり

雲の流相の波や菖花のゆは美ま志のむ湖乃乃海

湖水の一名湖の海或は冷海大宮ふちれた江とく 道江といひ又琵琶

湖といふは形よりく 東西十里南北二十里堅田より勢田

至くせはく琵琶の鹿角小似り勢田より宇治小をく 細くは海老

尾またとより柱ま竹生誇り都く山谷の濁る八百八川勢田の下流供所瀬

黒津南郷と居く巖石高く聳く 兩家の使とて鹿鹿といひ白浪瀬り

落る所と米濯といふは是れはさく宇治に至る淀川小入難波より又洋平會次

湖水の名を多と中平裡新江経傳結新勢田 櫻堅田 飯水 奥の内膳

式もゆく供所と成具外給水桂蟹観泥亀を救くありけ 湖水成

圍む水郷五百餘村 佐々木 百万石 小琵琶湖の濁る 二禪定をふ 道江人成

一夜半地裂く湖と成同村富士山 現はれぬ 不二禪定をふ 道江人成

先達も勸む善積一郡の己平湖とありさ今ふく 古来より 讀ふとく

日本紀古事記にも見えんを 慥ありに 懸く河流の水深細く

山谷の中より 流る家 諸子路子路 小謂く日ま江の 岷山 五路 鷲 殿 心

ほらとありけ 勢田川をれは 水源 渺々く 古来より 朝た

う川をみと 称さるりのけ 琵琶湖ありて 之國も又ありひか

建部神社 勢田小あり 延喜式云名神丈高 國寺一宮と 称は

祭神大己貴命 相殿 延喜式云 奉向 風日 牟の 鎮坐と 三代 實録 日

月輪池 月輪 彩田小あり 又 龍川の 東 池 二つあり

元の方あり 池の中 橋も 又 銅 鑪 産 後



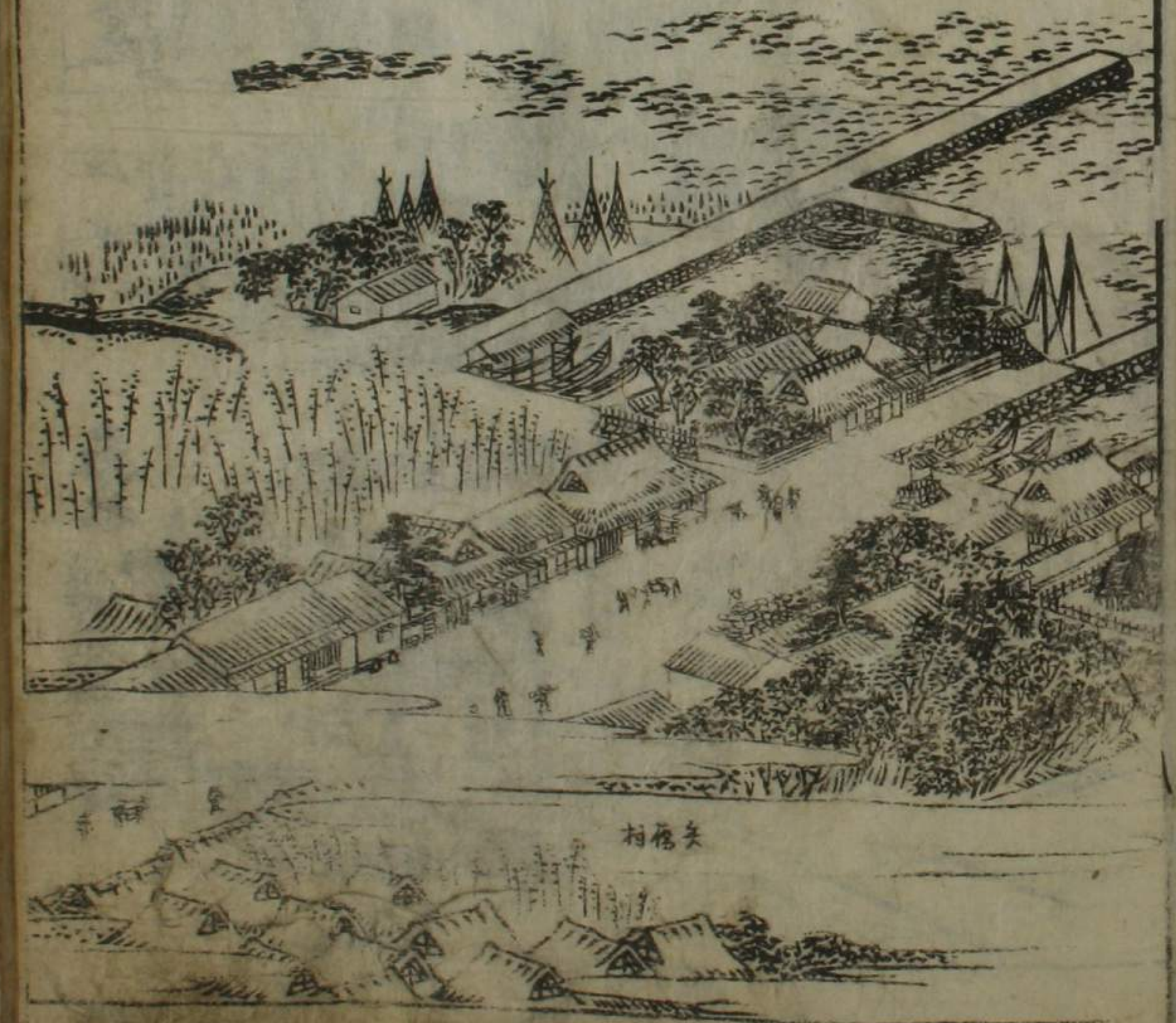
野の
 野
 川
 古跡

三
 おり
 瀬田の
 一村
 聖
 方



天

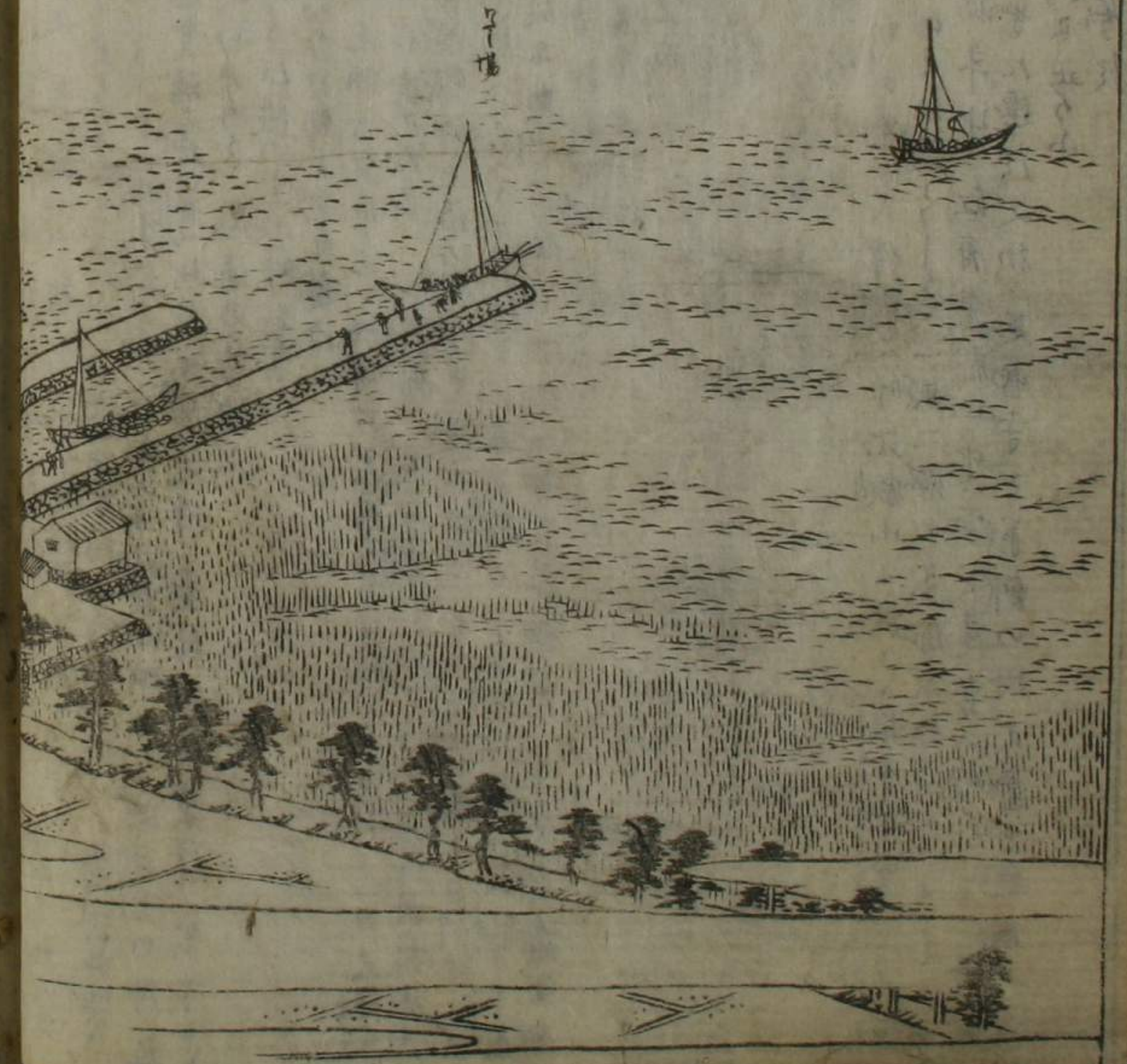
舟施
 湖照や
 矢橋の波
 正の身と
 いそそい
 せいの橋
 兼昌



村橋矢

矢橋
 渡口場

舟施
 矢橋の舟
 出ぬ舟小
 のをさくれと
 いそく
 公朝



鞭寄
八幡宮



石亭

栗太郡山田より決橋より此所神小松橋
 山田波呂の村中本内小繁と多家久とと村翁ありは人生得る年をり
 和漢の名石好み年茶諸園より聚りありと旅する年殺十年は遠べり
 恒石の形流風流みくを小松橋と樹いさ光ある書院石松より外
 兼若瓜林と席上より遙小見つさは湖水流流して日枝の石根痛
 の松真聖堅田志賀の都北の湖ては沖まの山田久橋のつと松行々しく
 みさけ亭とてかたかたなる石神代の勾穂なとて我國諸州の産の國北
 産赤石化石大物の爪水入の紫水晶中をある屋小筋と又小首玉入の錦とまた
 塗籠玉家藏とる車都て二千餘石ありとて所謂晋の石鼓と叫ぶ陶器と
 石小外孝徳が醒石玉定く月小日暮朝小夕亦たは灰愛は海内まのまや
 好事の茶貴となく候とわくあは鶯成柱と穀の石松見とる年
 予も巡行の序に立ちあはる石松觀る人の負玉入也
 和漢の名石ありとて茶壺玉壺
 故玉居所の二とあはる圖そのつと

濃州産
月珠石



相州産
羅漢石



相州産
石種芝



濃州産
候松石

春泉

家寶あり

山田石亭石
古今の石名
都て二千余種あり
そののて海内の好
あまのりて
観るに証し又作
邦より持ち来り
石種芝
みとん左傳
師曠石能言

濃州産
石種芝



流石
石拍葉



濃州産
燕子石

琉球珊瑚



鉄樹



濃州産
毛龍石



夏花ハ山田子原の
 名産ナリて後名と鴨
 必花以碧錦花
 之のふては白の花と
 指合紙平葉とす
 下給の園のあの花ハ
 新日のけい花とす
 自給の園のあの花ハ
 けい又とす



華津野
 白井直賢
 昌
 昌

步倦驛亭返
 茲休賣餅家
 出門還跨馬
 到處鼓吟牙

熊谷立肉



是所の
 吹子
 安が
 こと
 うけ
 娘が
 くる





田代江圖

琉人海
草津驛
觀駒井
氏之活
人石



草津

立本明神祠

祭神

和州春日明神... 祭神... 和州春日明神... 別當善賢院... 神護景云... 神中春日神鹿... 和州春日明神... 別當善賢院... 神護景云... 神中春日神鹿... 和州春日明神... 別當善賢院... 神護景云... 神中春日神鹿...

常善寺

今津土宗... 常善寺... 今津土宗... 常善寺... 今津土宗... 常善寺... 今津土宗... 常善寺... 今津土宗... 常善寺...

本尊阿弥陀佛

本尊阿弥陀佛... 本尊阿弥陀佛... 本尊阿弥陀佛... 本尊阿弥陀佛... 本尊阿弥陀佛... 本尊阿弥陀佛... 本尊阿弥陀佛... 本尊阿弥陀佛... 本尊阿弥陀佛... 本尊阿弥陀佛...

活人石

活人石... 活人石... 活人石... 活人石... 活人石... 活人石... 活人石... 活人石... 活人石... 活人石...

化石之類... 化石之類... 化石之類... 化石之類... 化石之類... 化石之類... 化石之類... 化石之類... 化石之類... 化石之類...

近江國栗本郡... 近江國栗本郡... 近江國栗本郡... 近江國栗本郡... 近江國栗本郡... 近江國栗本郡... 近江國栗本郡... 近江國栗本郡... 近江國栗本郡... 近江國栗本郡...

系津川

系津川... 系津川... 系津川... 系津川... 系津川... 系津川... 系津川... 系津川... 系津川... 系津川...

灰塚山

灰塚山... 灰塚山... 灰塚山... 灰塚山... 灰塚山... 灰塚山... 灰塚山... 灰塚山... 灰塚山... 灰塚山...

本尊云觀音 長八尺聖德太子の神化阿祖久遠よりありて其處の

梅本

是齊と本家といふ

小中寺

本名六地蔵村とありて中散の茶店三軒許あり

鉤古城

上洛の時病み外川村の西園村ありて

三上山

梅本の東山を里許あり一名百足山といふ

御上神社

九年の内名神大月次新嘗類聚國史云貞観十七年授從二位

奈神伊持諾尊

古事記曰開化天皇聖德太子之御影神之女

茶老

茶老本年中

神

神少りみりれとふゆひて行るひたり乃れやさうつん

櫻

三上山の櫻小南櫻村小南村とあり

三上山

三上山の東山を里許あり一名百足山といふ

御上神社

九年の内名神大月次新嘗類聚國史云貞観十七年授從二位

奈神伊持諾尊

古事記曰開化天皇聖德太子之御影神之女

茶老

茶老本年中

神

神少りみりれとふゆひて行るひたり乃れやさうつん

櫻

三上山の櫻小南櫻村小南村とあり

三上山

三上山の東山を里許あり一名百足山といふ

御上神社

九年の内名神大月次新嘗類聚國史云貞観十七年授從二位

奈神伊持諾尊

古事記曰開化天皇聖德太子之御影神之女

茶老

茶老本年中

神

神少りみりれとふゆひて行るひたり乃れやさうつん

櫻

三上山の櫻小南櫻村小南村とあり

三上山

三上山の東山を里許あり一名百足山といふ

御上神社

九年の内名神大月次新嘗類聚國史云貞観十七年授從二位

奈神伊持諾尊

古事記曰開化天皇聖德太子之御影神之女

茶老

茶老本年中

神

神少りみりれとふゆひて行るひたり乃れやさうつん

櫻

三上山の櫻小南櫻村小南村とあり

東海道
津分

東海道
直岐
名護屋
中仙



春泉



梅本

新の石れ梅本
 氏此處の石れ梅本
 家の石れ梅本
 其れ石れ梅本
 小田原の外に
 小田原の外に



金勝山
震巖

金勝寺の
震巖(數十人の
ちんちんりりく
初せとも文子
初は身をほりて
僅ふ指取るとり
押せば息者だ
初くあり



春永書

星風穴妙在、
類後人
梅辻北野寺指湯
著述
船の上開き更テ
迷りて晴スニ
此ハハ秘印モアリ

揮塵録小曰
宋の政和年中
嘉慶縣より
一巨石と貢ぐ
夏寺二天余千丈
これ成解とも
初は或人のこれ
神物と云ふ
表幣と云ふ故
顯して慶雲の熊
号して金勝とありて
其上に樹て初と云
漢初年して花中
至るまじの秘印
比せん



阿弥陀寺 金勝村の阿彌陀寺は并次伴土宗也 七谷とて入谷阿彌陀の地

本尊阿弥陀佛 文明十八年宗廟上人の建立足利義尚の信りて後土御門院

西寺 甲寅郡西寺村あり石部より十餘町南に阿彌陀寺常樂寺と号次坊舎の古礎多し

本尊如意輪観音 伴氏神の能重武平の勅願良存保正の南基之伴殿二層塔

東寺 同郡東寺村あり阿彌陀寺と号次坊舎の古礎多し

本尊地藏尊 伴氏神の能重武平の勅願良存保正の南基之伴殿二層塔

鬼難 正月十五日夜に赤鬼黒鬼の二鬼と被り鬼の舞とて小童或人ハ一ヶ月

大石塔 堂ありあり鳴り響く大石五輪の形ありあり古雅也

梅櫻 堂ありあり右大將頼朝より江州梅物庄と号附

美松 行道筋に松村中あり又松尾の外洞あり

美松と辨をり半の松の葉細く艶ありて四時をせし蒼々たり松の高小大

あり大樹の根をり四五人そを以て株常の雄松のめりそをり枝を枝すのれ近く

観望の蓋のめく遠く眺むに側柏の如く始皇の封松李白が南軒の狐松かまを

霄爪凌の雲樹異なり深葉の雌松株の雄松其雌雄分明あり緑葉同姓

生けけし中み深く悉同本之隣山のたの松あり又松一株もかゝり又他所へ

移し或は鉢植ふごころみ種なく枯く育せ次和漢松の部類を考ふるに

はたせに遠近ありて初観るに賞嘆せしごとく事かゝり是風土の奇也

宴見 村の名に依り名あり宴身と書次松のふあり山水を覽より水車もを挿け

日玄靈蹟 之雲村の神祠なり

妙感寺 之雲村の南妙感寺村あり

本尊千手観音 長七寸神佛定朝の作

万里小路藤房卿終焉地 萬里小路中相言藤房卿終焉地

又竹室五層房のわ杖番合杖等あり

建武二年 後醍醐天皇御在位

太平記及び古書拾遺小引より老後山にハッハ入帝より賜り一入聖の徳大を尊
と一いふ事ありとあり一首の奇とあり

世の子をよとせよ二雲の奥深くて月四けやふととの友 石居

四く録しとあり錫杖をもちて入帝十年不違て返り唐曆二年三月廿八日遷化す
入年八十五也 遠忌の時今も万里小俗家より使者ありしとあり

横田川

田川村の東あり横田川村の畧語に水源に甲斐谷の箱流會す

獄門岩

川原路傍あり相傳つ唐平六年奥州征伐の時安部貞任同重任
二人の首京都へもちりて後主ありしとあり

梵字石

道より山上百歩許あり相傳つ傳教大師元元の二字に自書しとあり

岩根山善水寺

横田川の北岩根山あり

本尊薬師佛

關土田元月光十二神將四天王
傳教大師の作

大師堂

境内小あり 鎮守 六河菴親成 劇伽井 本堂の北

百傳池

本堂の傍 思川 岩根山の麓にあり 又伝説あり

百傳の岩根の池みかく鴨がたのこもてやまかたれあん

ぐちかふいそ白ん石傳の岩根の池れ吹のこふ

つくとふいそ子の池せく水の流たつけそりし心縁は

岩根山

山麓より遠望に岩根の城竹生竹多景傳仲岩向石又ち

飯道寺

山を腹をくく入りて日光の寺に佳境あり

り末伝すえ一若代に岩根の山れ岩乃岩松

巖山のいひつ崎の巖のりまらそれと人か

久この老り成り色心いひの山れ松のみとら

寺記に 元明帝の勅願ありと和銅寺と辨次殿后延曆中傳教大師

比叡山根本中堂と營り六け山の良材と伝く横田川小筏とて叡嶽

せん其年早魁とく小水か大師堂山とて今も百傳池に提茶圃

出たり其茶も良茶金留の四字あり大師希池中と探り高深檀金とす

八歩の業師佛と傳りたまふ本尊とて信滿の法と傳る小水満とく

良材も汲み出麻浦も有せり大師を梵刹と創り勅奉す言の業師佛と傳り

金徳天體中小瓶に台鎮の宗風ありと醫王善道の善水のいふと善水とて新とら

終の法所

公報

後成

嘉慶

實政

平松山美松

松の葉をまゆふ
ひまをまゆふ
松の葉

川
松のくまぬれ

をまさん

かけ傘の

枝ぶりの

班叶



松の葉をまゆふ
ひまをまゆふ
松の葉
をまさん
かけ傘の
枝ぶりの
にて此を



水口

水口神社

水口神社 延喜式出城下の生土神と云

美濃郡大満宮

美濃郡大満宮 城内あり社傳云菅之流業許左遷の附四人の之邊に四所あり

蓮美寺

蓮美寺 湖中雨の方面あり宗肯言田風水口山太子堂と号し

本尊阿彌陀佛

本尊阿彌陀佛 長三人重徳太子の御化寺記云皇太子巡視の附あり

大岡寺

大岡寺 長三人重徳太子の御化寺記云皇太子巡視の附あり

長明海通記云衣系に大岳といふ山あり

退齡山飯道寺

本社飯道権現

退齡山飯道寺 天台宗日光淨土門臨小属

本堂

茶師 弥勒 釋迦

大師堂

元二大師

存財之祠

當山金剛院平安依止者傳加藤本ありて織田信長所持尊之

大黒天像

初ハ蒲生郡柏長者の持尊ありて當山に納りて猶祈成

身渡江

山王祠 本堂の傍

藏王堂

山の才腹 末社十八名 本山新々 影向石 本堂の上

護法石

本堂の傍 龍池 本堂の下 開伽井 開伽井谷

鐘樓

南谷小川谷の祠あり者 杖柱 水口道の傍

足跡石

教向石の傍 石南善谷 谷の石に樹多し一満る

道標石

八百比丘の 山伏落 本社の傍 險難のせあり當山に惡魔のれが

押當山の南廟

元明帝和銅七年八月十五日天童妙相出現して甲賀

郡聲嶽

巖を鑿鑿し教向にあり齊官女といふあり 然聖権現乃

齊官女登山

小柳の花飯と盛る形み見ゆると道の標とて

向石の側

然聖之石権現と勸法次故に飯道神社と號次殿后 聖武奉

信樂宮小遷都

一ツ附王城の鬼門守護とて天平十五年八月南都

興福寺の安岐法師登山

伽藍と造立とてぬ部の處場をこ

文徳帝の所宇

飯道神社に位官に授け醍醐の聖寶尊師徒貴

當山若本坊梅本坊和別大崎

且隨身供とて中興は時九月五日に

今に至る

け日笠と負く社名一活るが例式とてなれが後波しといふ

當山の開基

良辨僧止安岐安岐二世相續て住職とて中興は光定大師に

長覺大師

近衛院之安年中飯道権現の勅額と賜ふ 今堂藏は時甲賀

の惣社

成織田信長の初願と信ありて登山し鳥井坊小斎齋

神領と新附

の半古記に及らるるは山大崎葛城とありて

峰峻

とて老杉を齋とて梵字寂實とて苦蘗蒼々丹まらるる

且空

とて足れとて神徳ありとも今も愛とてとてとれ



山上庚申 水口より南を里山に上りありあけり登る年十八町山頂也

青面金剛童子 傳教大師の化岩面を禱して是曆年中又解比麻山根平神尊

甲賀谷の一名松谷といへ又礪之尾といへ民権の初初に伽藍を建てる古跡

辨慶背鏡石 水口の赤毛里に里村の景清力鏡石あり義経腰掛石

義朝洗首水 縮川の側あり義朝の墓と云ふ瓜石右の石は清水共た

山口重成碑 右の首の石は山口志志清重成の墓と云ふ長中の人

慈安寺 寺村のあり禪宗字法雲山末派の清水庵の寶器と云ふ

松尾川 松尾村の流あり一名内白川といへ土山の田村川と

若代の子を丹をに出りたり松の小川乃水のまはる

土山 土山の下まき武里半西立湯多賀神社へ末法道の標石あり

田村明神祠 土山の駅北東あり縣中系の方井土神とい

祭神 中央將軍田村兼相殿系の方塔城天皇

平地堂 千の観音と末社 禰宗 弁天 神徳家

神寶 田村將軍像左右二鬼が提中へ又能麻作の像俱小画彩より

綱御將軍系より賜る 珍瓏たる名品なり

史書社鎮坐の年歴同記を見たり往昔延暦年中奥州安部高丸王命

小坂一六田村將軍追討して駿州清見園を封じたり合戦の時清水

親者並驗の事あり又一休和尚は是の時強盜に遇り幸陽難記に

あるり又田村の謡曲は田村九能麻の鬼神退治の事云々あり

神祠 成建ると云へり 或云云正のに諸國安土山は織田信長在城の時田村

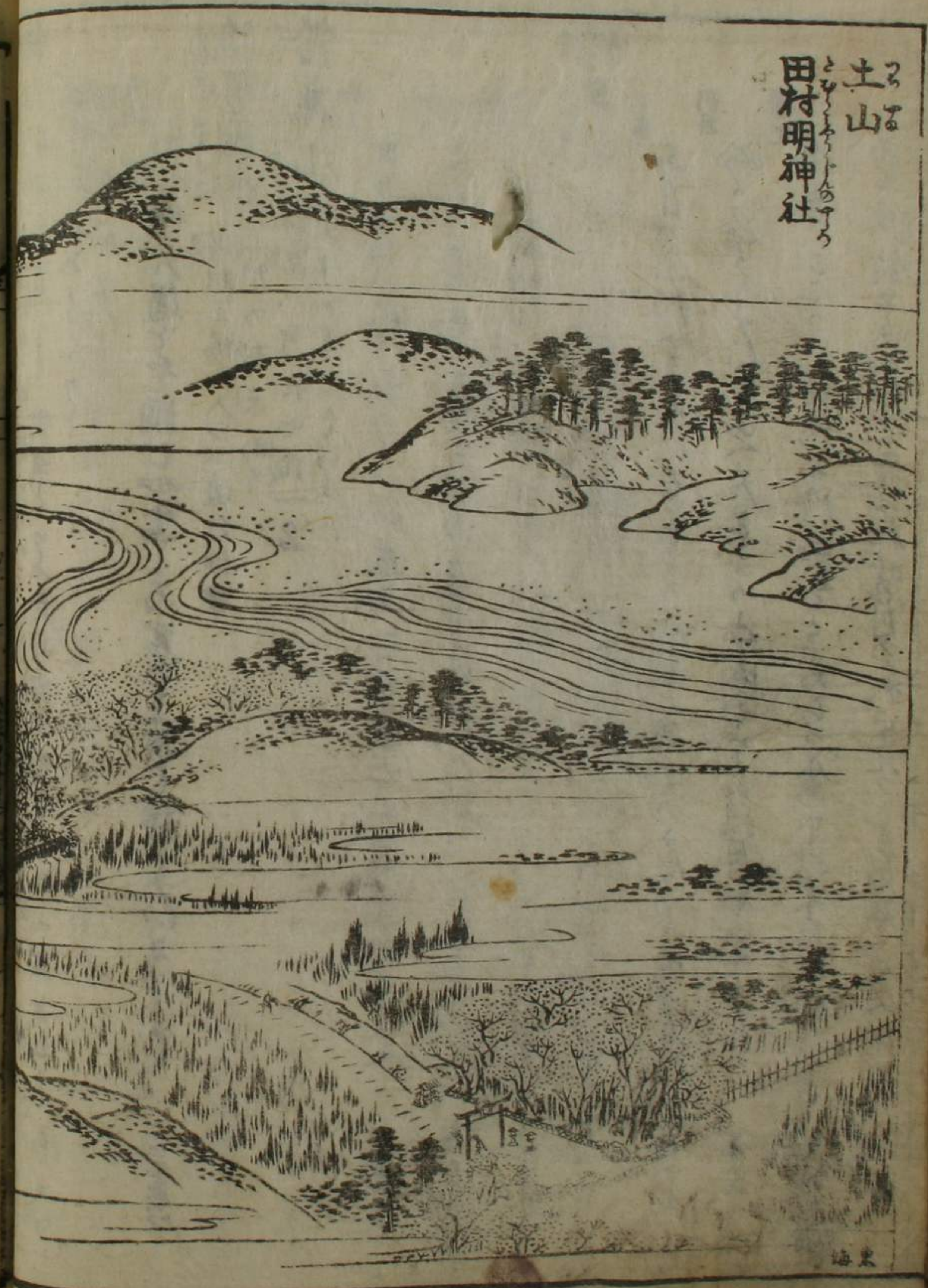
道は近藤山に鬼神田村九能麻の事云々あり今に里人安土街道に

近郷ありを路傍に祠とす 抑田村將軍の傳は續日本紀王代一覽元章

見へられ詳記する小建は田村會は桓武帝の外戚あり忠肝義膽の人

且勇威あり一を眼と張て怒る人を猛獸と身と縮り四足は變じ一を

幻見も親とく是母のぬくと面貌とくを懸たりと云羽のぬくと



土山
田村明神社

田村將軍
鈴屋の鬼神
退治の末
實記あり
されども
久しく世の
人は膽突
その事
これ觀る
の怖ろ
なり



觀者の下れ
夫のたが
酒の成
鬼殺しと
兼吉



澤登山

麻細道の
大のあた火燈
戸口八湯桶
襖漆五神
又治荷
旅人や
時々の
松名
シ



坂の下
驛
入竹小舟
大なる
旅舎あり
本陣脇
五老井
旅の職
上原小舟



地藏不及招嫖榮
 欲買相談約束成
 寐處蒲團繞一牧
 來時太嚴已三更
 羅縠寶帶數千蟲
 雲雨巫山二百情
 昨夜幻妻今晚現
 明珠飛出額如蠶
 胴脈

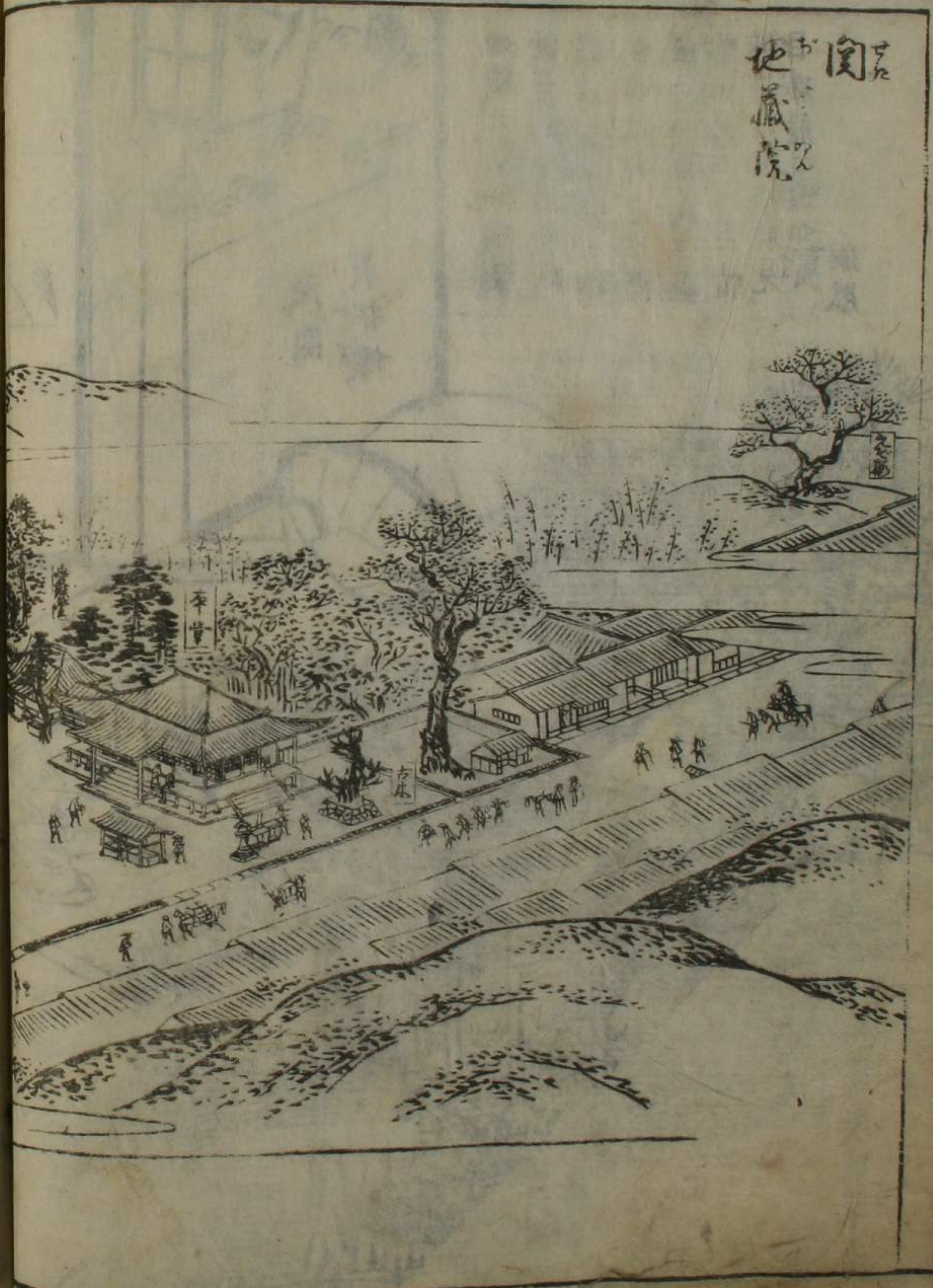
泊
 閑
 買
 招
 嫖

月
 漢
 寫

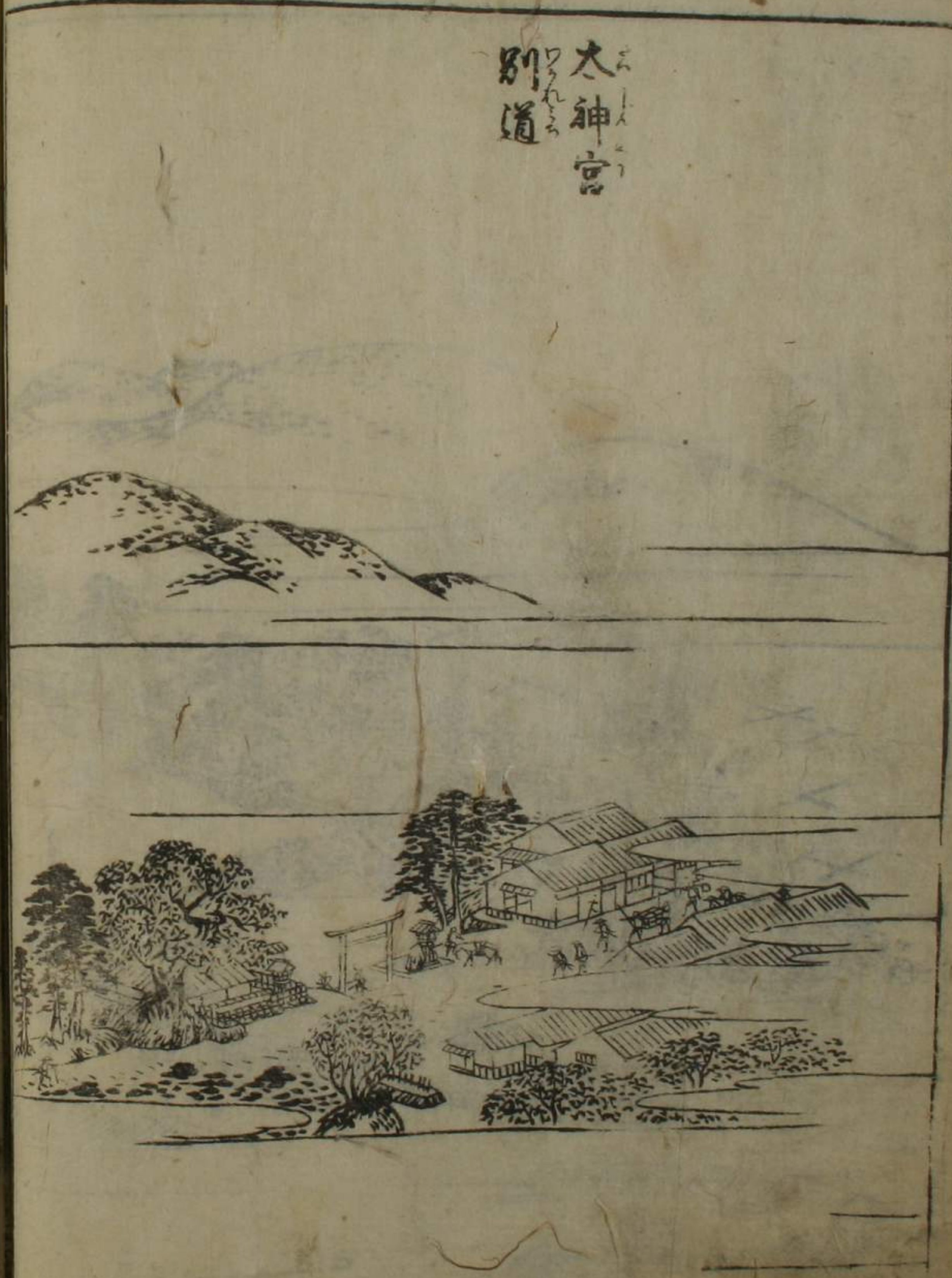




右
圖
地
藏
院



大神宮
別道



秦宮道

出羽森

古馬登

布氣神社

龜山

森下

庄野

白鳥塚

秦宮道 山田外宮を十四里を歩き神燈籠石より直道へ東海邊なり
 出羽森 出羽森古森のくはむに大岡寺繩の十八所あり右に黒山とて
 古馬登 出羽の南にあり村の名とて天照太神五十鈴川の上へ遷居の地あり
 布氣神社 聖尼村小の延喜式内今皇宮大神宮と総に例来六月廿一日
 龜山 庄野をぐる里龜山平中十七所外左の方には城あり
 森下 慶長の辰岡平下野守とて人居城せり
 庄野 今ハ石川彦左成あり
 白鳥塚 今ハ石川彦左成あり
 庄野 石末師を七七所は馬の名おは儀入の想設を愛とありより此町許森の
 植聖村といふ所あり名馬生味の所といひ此の長者野宮
 の親者の示現より門に馬矢傳く右大將頼朝の採けり其後
 佐々木高綱小幡宇治の先陣あり
 白鳥塚 佐々木高綱の十河許東鏡麻郡の内宮村あり是則日本武尊の
 陵のさや拾八間東西八拾五間南面今ふけり日本紀より能登野の
 又さるる神の方に高式武人東西六間半申式尺許に石を築きむれ
 白鳥塚の側へ又奉祀家とてあり又奉祀家とてあり其の側へ
 白鳥塚の側へ又奉祀家とてあり又奉祀家とてあり其の側へ

諸上人ホテ... 今多ク... 日本建尊自阿豆麻幸行而到能煩野之時思國以

日本建尊自阿豆麻幸行而到能煩野之時思國以
歌曰夜麻登波久示能麻本呂波多多那豆久阿哀
加岐夜麻基母禮流夜麻登志宇流波斯又歌曰
伊能知能麻多祁牟比登波多多美許母弊具理能
夜麻能久麻加志賀波表宇受尔佐勢曾能古此
歌者思國也又歌曰波斯祁夜斯和岐弊能迦多
由久毛章多知久母此者斤歌也此時御病甚急
尔御歌曰表登賣能登許能辨尔和賀淤岐斯都流
岐能多知曾能多知波夜歌竟而即崩尔貢上驛
使於是坐倭后等及御子等諸下到而作御陵即匍
匍迴其地之那豆岐州而哭云云

夫日本武尊... 景行天皇の皇子... 小碓命と申以乃名倭男具那命... 此尊者女の姿小身と称ひ其家に入... 者瓜平げやふ是より倭建命と称する其後東の方... 沛凱陣の道より中嶋ありて終ふは終獲所より... 天皇小哭しやひ群臣小命とてあに葬り... 倭國小飛り群臣具棺を閉たれんを明夜をり... 大和の琴彈原小陵と傳る白鳥更飛る河内國古布... 陵と云く時の人け三陵と稱く白鳥の陵といふ妻... 高富山瑠璃光院石薬師寺 石薬師歌のあり
本尊石佛薬師如来 長七尺八寸 泰澄弘法大師感得の姿像あり
當寺尊像へ金輪涼より出現の靈石也 聖武帝の所宇神龜年中紙の

泰澄は所を通りゆくは光輝々たるを所とてお申に泰然と樹林
の中より異香薫と十二神將のつきたはひ一箇の赤石を捧ぐ泰澄
感悟しゆく末世の衆生利益の爲正しく、醫王尊の示現とて速小一字を
割く靈石を安んず其後弘法大師泰澄の蹟を追ひ靈石をりりて醫王
の尊勝を彫刻し桐好満くもて同眼供養の具より靈應日々新あり
く遠近の致禮猶麻のゆけ由 嵯峨帝の敷聞に達 持舎僧房宮建
わりく寺を瓜割りの中古泰永兵乱の以蒲冠者範頼の上洛の時まに
治し丹誠を凝し武運を禱し携りひ鞭を倒みく地ふりく今小
枝系榮りり追くは兵の兵變に罹り佛閣一時の燼とある幸小本尊の
災を免く燼中み恙なくゆりく其後の住職圓賢法平の智徳の沙門
みくある時差中小示現ありて秘法を教へる精進と加持し世上興病難成
とくひ殊多乳汁をた婦人出する時流のゆけ法平を賞く教のゆけ世弘む
あは瓜系師の八割果とく一柳直盛度高田神戶居城の時後々の奇特と

感ト本堂院内再建の又慶永六年秋九月十四日秋高田園四日市淡田村
の長何某が夏みある十七日秋風頻ふ起り馭中の人民死亡と云ふと村崔
多く其夜災不代と示現あり翌日高寺に往り暑のうりて治る小別當も
同夢と感得せり果して十七日夜暴風驟雨を起り其時竹林乃雀殺
千羽先落せり人みかあくとく追悼の作爲をたはは是應其以世に
流布する所之は騷の舊号瓜高富といひて自然と靈尊瓜賞とく
石系師とて山嶽瓜高富といふ

總過庄野郵有寺肇高樓西福門前景
東方世界秋百病無自性四大一浮漚
刻石藥師佛此言須點頭
拜石藥師其制工應供方土本當東
露會虛碧瑠璃色間出身途鑿鏗中
右心のあひりや櫛れそのまといふたゆふみの殺つりれと
御曹子範頼祠 石系師の向ひに表すた櫛の内より土人三むり範頼
と倒れさうの後に枝系師の今義絶運風といひて田畠の中はわく範頼
とて倒れさうの後に枝系師の今義絶運風といひて田畠の中はわく範頼

釋元政

淨慈和尚



日本武尊陵
 白鳥塚といふ
 元聖石室併のり
 宮村といふ

泉州池田之土
 繪圖



石薬師寺



伊勢 石薬師

四月廿七廿八里武拾七町山縣市中七町計
東の立場に瀨原と云ふ地名あり

推武考祠

長保村あり石薬師縣中より左の方へ入る年許を里計
神田本武尊神子推武考王あり
年中推武考王あり
途中推武考王あり
途中推武考王あり
途中推武考王あり

赤人古蹟

石薬師縣の赤人古蹟あり
赤人の古蹟あり
赤人の古蹟あり
赤人の古蹟あり
赤人の古蹟あり

園分寺跡

石薬師の東に曲郡園分寺あり
元明帝若老年中に宮中より一州一古蹟あり
園分寺跡あり
園分寺跡あり
園分寺跡あり

杖衝坂

杖衝坂あり右の方の山に血塚と云ふあり
杖衝坂あり
杖衝坂あり
杖衝坂あり
杖衝坂あり

自當藝野上差少幸行固甚疲衝御杖稍歩故

歩ゆゆは杖つと坂成馬の邪

杖つと坂成馬の邪
杖つと坂成馬の邪
杖つと坂成馬の邪
杖つと坂成馬の邪
杖つと坂成馬の邪

采女村

杖つと坂の東にあり
杖つと坂の東にあり
杖つと坂の東にあり
杖つと坂の東にあり
杖つと坂の東にあり

追分泰官道

追分泰官道あり
追分泰官道あり
追分泰官道あり
追分泰官道あり
追分泰官道あり

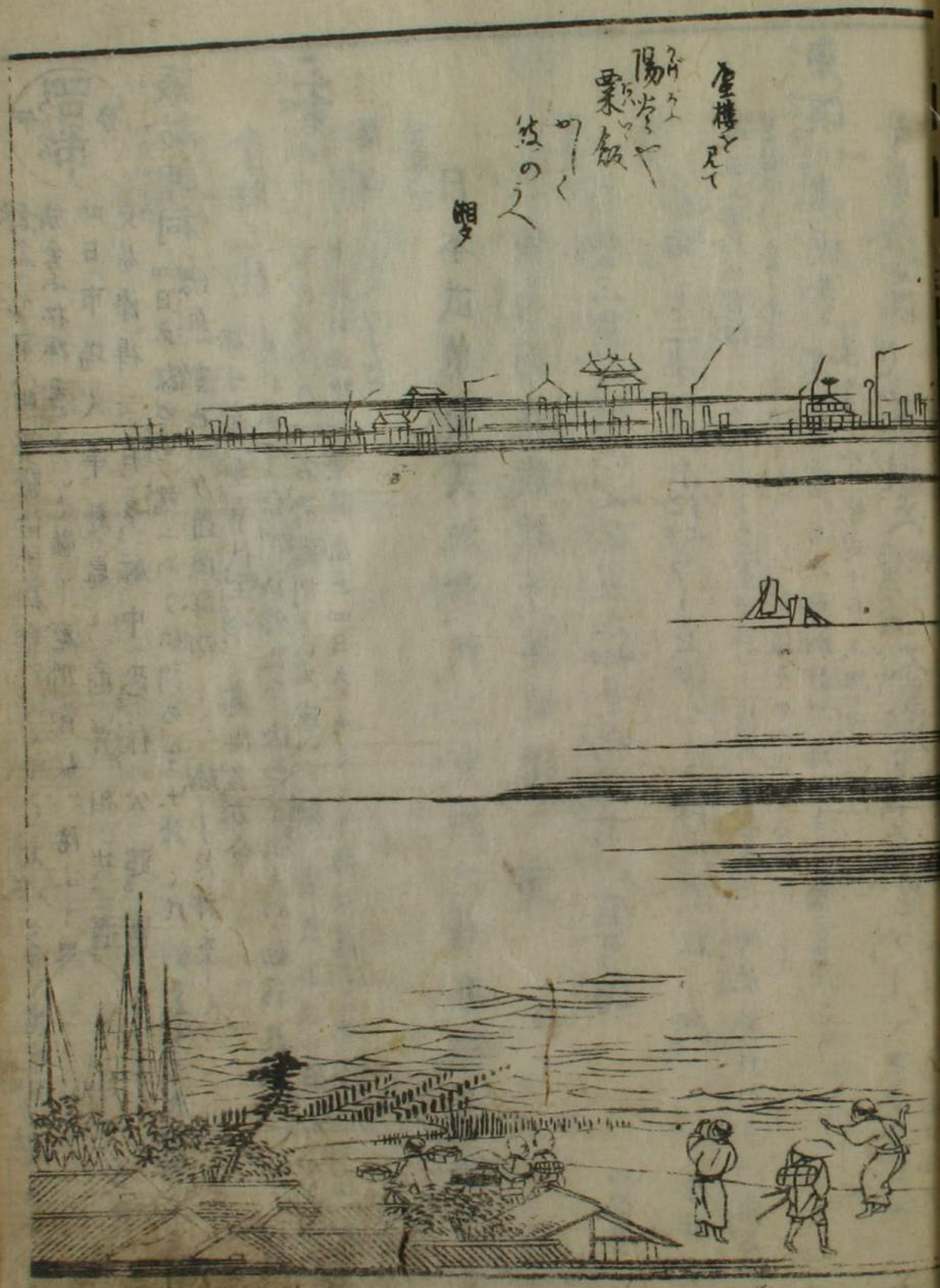
日永村

日永村あり
日永村あり
日永村あり
日永村あり
日永村あり

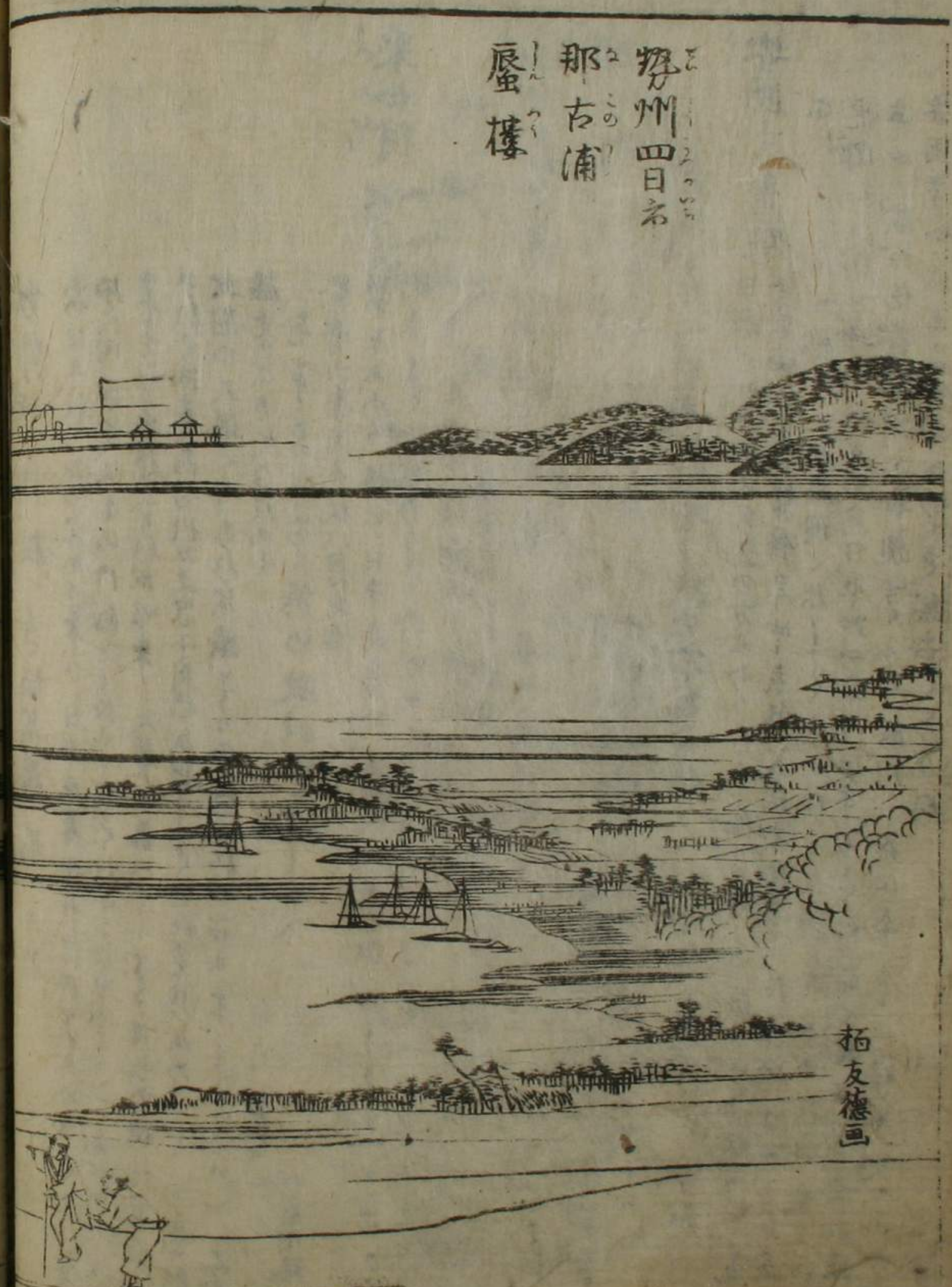
安國寺舊趾

安國寺舊趾あり
安國寺舊趾あり
安國寺舊趾あり
安國寺舊趾あり
安國寺舊趾あり

安國寺舊趾あり
安國寺舊趾あり
安國寺舊趾あり
安國寺舊趾あり
安國寺舊趾あり



金樓
 陽
 粟飯
 佐の
 人



勢州
 那古浦
 蜃樓

拓友徳画

面十大海門矣是海門也南界勢之熊岳北
則尾州如海嶠也其間亦數十里所有之
數處而己春之夏之交數月之中一鄉所
其微風收將雨之前自地如連尾之嶺
靜變或海門所在而前不可說也須後
烟排列森或臺子或門關前有干荒後
伍北海景象不違歲率其顯見也發南
山北古今不違歲率其顯見也發南
失不古象不違歲率其顯見也發南
焉人傳道吾鄉數千步蓋以爲吾鄉
士人博物者云勢灣之神廟遊幸于尾
廟也博物者云勢灣之神廟遊幸于尾
爲其所吐窮也嗚呼神靈之遊幸也
天理不轉旋爲奇觀爲勝者非秋間之
運動轉旋爲奇觀爲勝者非秋間之
東海道中名所圖會求眞所記圖氣
題實以贈亦貞之拙筆端之一氣哉
覽政七年四月乙卯夏五月曹西村
勢州四年四月乙卯夏五月曹西村

聖汲觀名

四日市乾里軒聖汲山あり天台宗本尊なり
他又兼師堂あり真院あり慈覺大師像あり
諸堂巍々として正

志成神社

朝明郡羽津村あり延喜式内
系神天照太神荒靈記内

西乃菴蹟

船形川の上二里許福の山に禁ことり
今同跡とてあり

名物燭輪

遠田郡おゆけの茶店に火鉢と名づる
燭輪とてあり

町屋川

尾州小牧合和殿の境内に信雄口と豊臣秀吉とに
あり

茶名

宮守七里に海州尾州の國峽に依りて宮守七里茶名
あり

名産白魚

尾州赤須江あり
時雨拾

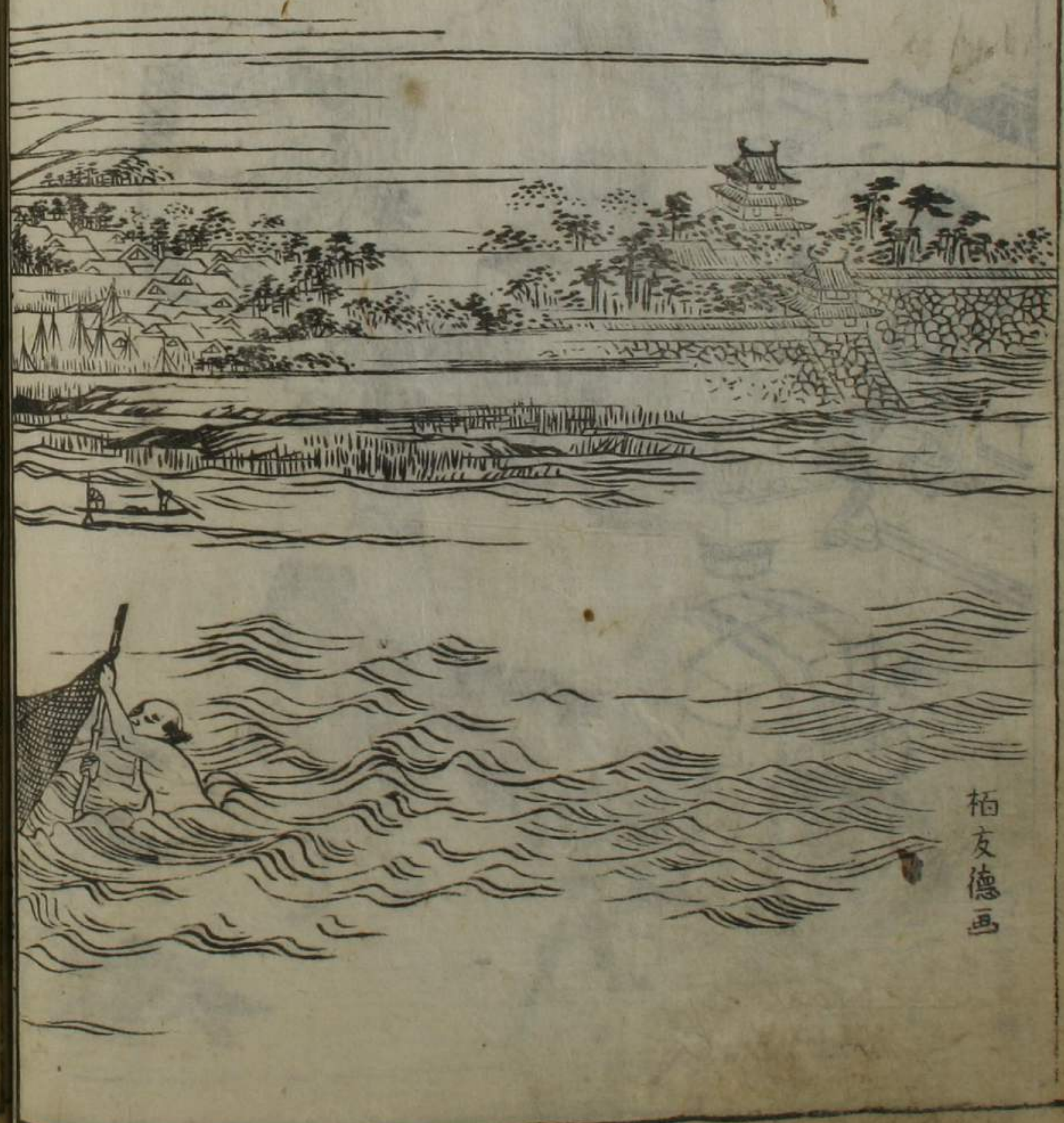
名産白魚

尾州赤須江あり
名産白魚

名産白魚

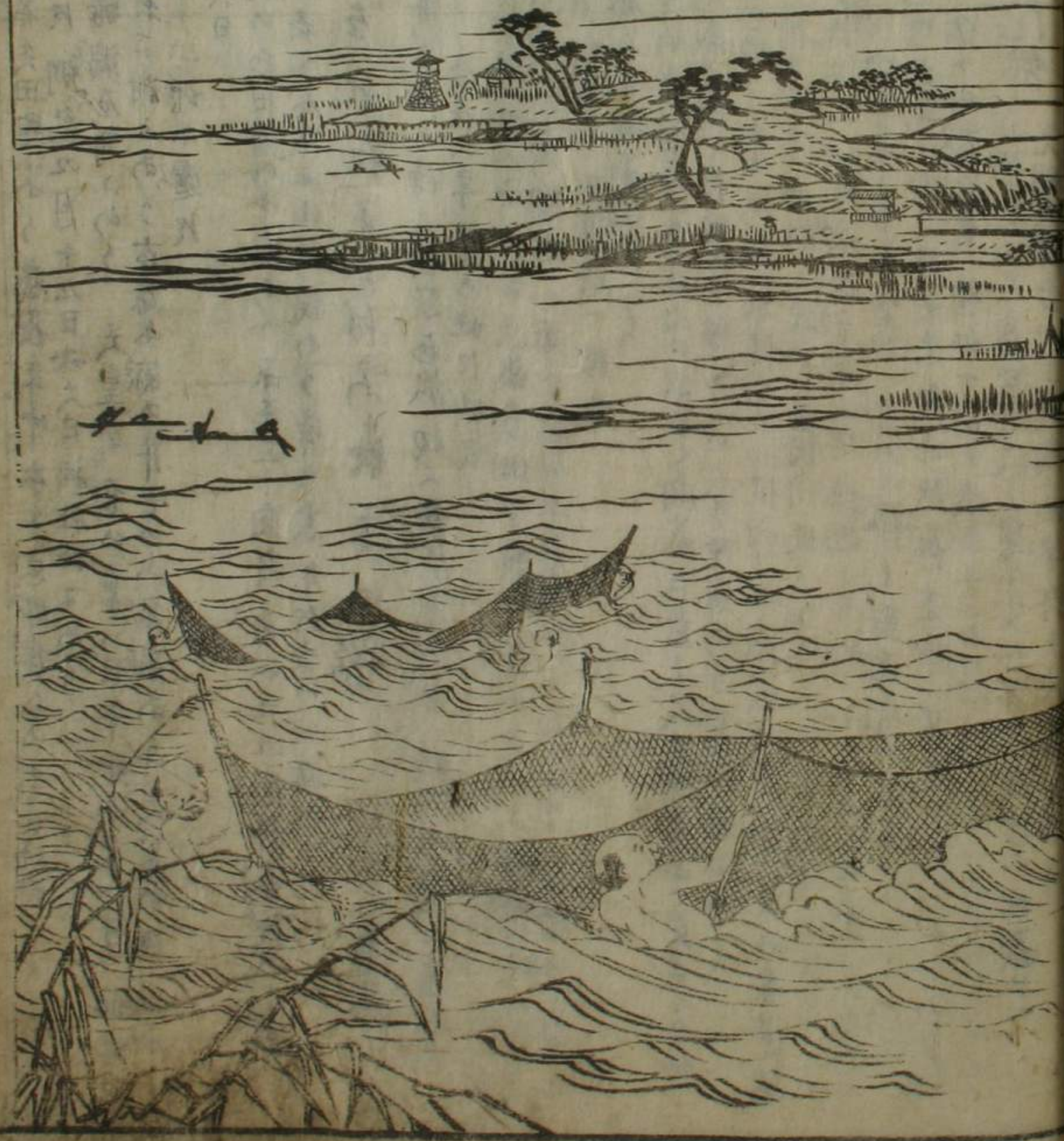
尾州赤須江あり
名産白魚

瀬名の海を
 冬より夏に至る
 まで白魚の候と
 申すなり又船々
 秋八月の初より
 知る所をるれと
 の味はけりけれ
 船の名もなかり
 出たり



栢友徳画

白魚の
 鮮い
 味の
 池
 各
 貞隆



夫田八幡宮

東名夫田町あり慶長年中本多忠勝侯のよむ此村よりあり

天武天皇社

同驛鴻原町あり天皇御幸の事八日奉祀あり

一本松

本松村の西田圃の中あり東名三十間許あり

長圓寺

日驛日所あり津古真宗色伽初の真言宗旧地

本尊阿弥陀佛

他不詳中右住職貫通本願寺上人

嘉量寺

日驛日所あり日蓮宗身延山の末

願護寺

日驛日所あり日蓮宗身延山の末

本尊阿弥陀佛

安の孫永祿元龜の長

十念寺

日驛日所あり津古真宗色伽初

本尊阿弥陀佛

立修長三尺觀智二丈士

法然上人鏡神影

正法日所あり良忠上人傳法之印

本尊阿弥陀佛

立修長三尺觀智二丈士

本尊阿弥陀佛

立修長三尺觀智二丈士

本尊阿弥陀佛

立修長三尺觀智二丈士

本尊阿弥陀佛

立修長三尺觀智二丈士

本尊阿弥陀佛

立修長三尺觀智二丈士

本尊阿弥陀佛

立修長三尺觀智二丈士

本尊阿弥陀佛

立修長三尺觀智二丈士

本尊阿弥陀佛

立修長三尺觀智二丈士

本尊阿弥陀佛

立修長三尺觀智二丈士

本尊阿弥陀佛

立修長三尺觀智二丈士

本尊阿弥陀佛

立修長三尺觀智二丈士

本尊阿弥陀佛

立修長三尺觀智二丈士

本尊阿弥陀佛

立修長三尺觀智二丈士

本尊阿弥陀佛

立修長三尺觀智二丈士

本尊阿弥陀佛

立修長三尺觀智二丈士

本尊阿弥陀佛

立修長三尺觀智二丈士

本尊阿弥陀佛

立修長三尺觀智二丈士

祭神

春日明神

攝社

本山祇神

母山祠

地主神

衆名神社

春日明神

衆名神社

春日明神

實平法皇 宇多 皇太神宮 法樂と成んて當寺小幸の川に皇太神宮の

教向公作侍の八月と累の日伏候と云に遊觀し人因茲方丈の宮に

法皇院と稱し 後冷泉帝と永承七年正月幸有て一僧公敷て初會の

續經あり其後弘安元年大災小罹く伽藍灰燼とあり中興伊智長官額田部

之和實澄神託公衆り忍性上人 興正菩薩の上足たり 心と合せ再建不及ひ

福田寺と稱し 忍性と中興とに神託の靈應顯聞小達し 後宇多帝の

初願寺勢の詔公賜し足利將軍尊氏當り公尊信しと人の字とくく

大福田寺と稱し世人の只大寺と稱し厥后明應より大正に至るに於て兵變に

罹りぬ往古に南伊智山田の川に神宮寺たり唯一ありし時奈名郡に移り

近世万治三年まで安永村江場村の間にあり今東海道大福村にあり是當寺

の門ありし所之故に大福村といふに北伊智に於て初願の靈場真言の古刹に

於て之を双びかきしり塔頭寺七院末寺四百四十餘ありしを定へし

御寶殿 宣旨所ありしり 持統天皇の御時之に神託の神寶ありしり 所て

佐乃富神社 所宝殿社地あり 延喜式内

中臣神社 延喜式内 日新あり

佛眼院 原名興通あり天台宗東嶽山に属し山号寶興山 額録書あり寶興山と書け云龍の寺

本尊文殊菩薩 嵩山二十世快尊法下の他靈伴阿弥陀安ら休の他 又十二面觀者 三空荒神共に快尊の他

什寶 緋紙銀泥華嚴經行願品 惠果阿闍梨等 延喜寺統記 尊本親王等 唐書 羅名肉色彩衣公纏を比較の妙画

已上 卷七の向基の修教大師の跡海院と号し旧地今の東方村の西南あり 延喜帝の御時より三條の神宮寺と稱し依之今の地に移り當り二十世

快尊法下の長壽より七十歳の壽に保ちて登天とあり寛永年中 の住職の文尊法下の 勅定坊天海和尚の門子

大圓寺 兼名入江冊あり津上宗西山派ひりしに比叡ありしに天台宗之 仁明帝御宇呂運和尚南基其後智州明那馬場に移り

本尊阿弥陀佛 惠心傍那他隔檀阿弥陀甚日他茶師伴定朝他長武又九村 立像初天台宗の本尊之馬場村に移りふりり

什寶 什寶 十五画像 額輝等丹青妙畫之 大黒天 修教大師他投頭中と著け異相之

地蔵等 唐書古画。不初等 十六善神 俱不唐書古画 已上 當寺の慶長年中兼名是所あり今に五町と云く 武士屋敷と云ふ 長治二の八に所に移り

柳堂法盛寺

桑名藩所小あり津土真宗西風寺中ユケ寺
末寺六十餘箇寺北伊勢小あり

本尊阿弥陀佛

法慶化長三人銘清齒と具延
開基の安延仰うて奥州秀衡の持尊

經藏

通平寛政二年造立額般若山美樂入成子橋丸東門より南
東福寺の巻を草屋より林東福寺八向山聖一團所より大瓶の隠し

金鼓堂

堂あり小書院
室鏡寺官理秀尼公持

書院

室鏡寺官理秀尼公持
嘉禎元年の杖親聖人

當寺

原天台宗より三州額田郡大知小あり
嘉禎元年の杖親聖人

秀衡

今宗と改め十字の名野が賜ふ今小存立
忠圓房の奥州伊達

最勝寺

日所小あり右同宗西風尚も原真言宗
本願寺より二世覺如上人小持して今宗とあり

本尊阿弥陀佛

春日の地初八同國
末寺百八十餘あり長崎一乱の時尾州

不動院

日所小あり真言傳驗道醍醐三空院小属
元和中城主松平源州彦清所移所とあり

奉納

其一幅あり
奉納寺より十一世とあり

鎮守天満宮

不動院境内小あり多居額天満天神
佐々木忠作は神像の長

楊柳寺

日所小あり曹洞宗旧地
城西郷所と之所は所 持統天皇降臨の

本尊釋迦

坐像 正觀者
金剛坐像天竺像也

赤須賀地蔵尊

赤須賀東渡の上あり石像三尺五寸
海より出現真言傳驗道寺

常燈明

夜走波海廻船の燈
徳海軍前

白魚像

芭蕉翁句碑
白ちちん足より

伊勢海

東名より西風の陰海
古今

伊勢海

いせの海小釣るとまよふらむれやを
いせの海に燈をくまよの夜あるとまよれ
あけぬ君か

伊勢海

いせの海はあけのりか
いせの海はあけのりか
いせの海はあけのりか

伊勢海

いせの海はあけのりか
いせの海はあけのりか
いせの海はあけのりか

伊勢海

いせの海はあけのりか
いせの海はあけのりか
いせの海はあけのりか

伊勢海

いせの海はあけのりか
いせの海はあけのりか
いせの海はあけのりか

伊勢海

いせの海はあけのりか
いせの海はあけのりか
いせの海はあけのりか



帆
 真帆
 帆の
 帆
 帆



葉名波口
 一名
 同遠
 又

春泉亭

末社 伊保久志祠 八幡宮 一卷祠 藤波祠 福壽祠
八王子祠 両宮 鉾之祠 山神五坐 龜神祠

丈部社の鎮坐八年歴久遠あり、この年終に於て往昔より多度油井山猪飼
村尾津村等の邑里みか神領あり、今に至り尚社と鎮神あり、五月の式

ふまをれり、勢心故に村民流り、疫病或は春帰の難あり、あゝ永禄年中
母の織田家の令と出り、瀧川一益大將軍として長治多度のやちり合戦

止事あり、い時多度神社冠火不懼、神寶舊記一様あり、其後慶長六年
の浪平多忠勝侯京名を城の内尚社と再宮し、其より累代の城主

尊崇ありて、又舊觀小治り年中の例系七度中、五月端午より流
瀧馬あり、神領の村民神前小治り、圍りてあはれ定む、騎人四家内を人ら

考へ、日神奥に基小山村の東、神所へ神をあり、くまもくも流瀧馬あり
近國近郷の老翁社とつ、ひく、秘系稀麻小異あり、同月初酉日、あ田徳の

神事、霜降月初日、あ杵形餅と餅供、次神主小岸氏、平聖氏の二家社
傍に法をさし、い真言宗あり、く、大慈の佛とあり、上、愛宕の坂路、千修町

あり、新見地、祇彌勒堂、觀音堂、俱小藤あり、修験と喜宝、い社領あり、祇
幣殿、神饌殿、神連舎、水所あり、い、の、瀧川と用い、金鼓あり、二宅堅忍、流あり

掬菊勢あり、内外の神小勢あり、多度の登り、り實小神國の中、此、林園た、り、
多度川、水、壺、下流、若、川、中、入、階、り、松、平、四、五、所、と、修、り、
不思議あり、い、土人云、流、水、地、中、入、る、石、の、四、五、所、い、癡、人、の、家、あり、
神水、其、地、の、秘、法、あり、い、り、あり、い、云、

多度川の流あり、い、神、後、て、多、藝、の、原、小、宮、つ、り、ま、り、
或、カ、云、多、藝、の、原、法、國、の、郡、名、と、則、多、度、の、北、の、山、嶺、と、あり、い、上、右、と、
多、度、も、英、漢、國、の、音、老、の、多、度、の、心、嶺、と、の、真、あり、い、

多度梅 多度桃 俱小名産し、梅、い、り、
宮人の赤名瓜あり、い、多、度、川、
後日記

神風、北の要や、多度のむ先
七色楠 神社石塔の下、あ、七、色、の、木、あり、い、名、と、い、周、五、丈、あり、い、い、
飛、龍、の、勢、別、長、崎、城、修、理、の、時、は、楠、を、伐、り、城、門、の、扉、を、成、功、の、日、に、風、
を、吹、く、城、を、崩、れ、是、多、度、明、神、の、業、也、城、門、の、扉、一、方、は、花、川、勢、多、那、一、吹、
去、り、一、方、は、赤、名、城、下、の、落、り、と、い、其、後、新、植、種、た、り、い、い、

多度山



朝拜岩
七ヶ園
眼下
遮る



山
下
河
橋

夕立
塵
流
神
乙由



津
牛頭
大王



津島牛頭天王（新嘗神傳あり）津島の生む所

祭神素盞鳴尊（本社小倉南神本）祭神素盞鳴尊（祭神素盞鳴尊）祭神素盞鳴尊（祭神素盞鳴尊）

一王子祠（本社小倉南神本）八王子祠（本社小倉南神本）

柏宮（透明方あり）居森祠（土人疹宮とも）彌五郎屋（彌五郎屋）

他毒神祠（尊神の荒魂）獲氏將末祠（獲氏將末）十二末社（十二末社）

ま出社の神傳と鑑小仕地の舊名（藤原里）の久人皇七代 孝靈天皇

四十五年牛頭天皇の和魂太神韓土より版朝ありとて西州對馬に

互く兼と累の廢后 欽明天皇元年神勅有る尾張國海部郡（今海東海部）

門真在は神傳小神ありとて按對馬州小津兼之鎮座ありとて

う川之遷すの後に文字が改く津傳天王と稱せり又地名も藤原と

廢く津島は海と海と後世永承天正の辰贈正二位右大臣藤原上総女平

信長公も通るり後向く畿内及び東海東山兩道の間小津とて

逆多の討く威と四海小輝を奉信祖の歩らゆり當社天王の神威が

尊信し治平安民の擁護が務り社願が經營し兼式が教を

かまされと傳書ありとて遠近の壯觀とありみか足四海の浪標と

しく平天下の瑞あり

傳書系記

花洛 岡田子葛藤述

第一寛政の頃とてのみか月尾張の國鳴海の里下村氏のまゝとて

津島の中山見ふありとて地田氏とありとて考對小下村氏の神人眞を時嗣

と著せる系記（正徳）とて示されりは記の兼由藤論とて玉ありとて行伝且

おたてたりとて久ありとてあれ今も傳うり見多しとて奉りてのゆかりあり

かの祀ふりて要とては考對に押し合ふの御神人氏のを徳みとて

傳と納涼とありとて基ありとて十日の宵祭とてしひり

試樂とては信樂と唱へりて神宣祀ありとてかの祀ふり

より八日小建の毎所の車登りて試樂し十二日小至り江口に於て馬の試樂し

とて津島小津とて十日日十五日共小安全の神とありとて小津里俗ありとて

蓋
 日本小
 あらそ
 殺の中
 孝川の
 物



香泉

杜の神
 殺の神
 調進に
 あれだ
 中の香
 りこ



其の記

壹律の東宿のまんとをれをそと産の人ありきりくはともや
はくふのてあるあり今日に市に日ふあんとありてそのいふを
性還のまらひをふむか一やぬ家はまのえんくれみや
人ふやうんとよめる花のあつんはやうりてたはゆ
花あつぬ色香もあつぬ市人のいづつをそと産の魚つ

阿波の浦

壹律のやういづつに海をこえんてり
金子
古語多し

多たたるあをそれ浦の海士たもみるうくあをそと
汐る社ひまをあつぬやあそその浦に海士とそや

保雅光

つら哀あつその浦に山せ貝むかしくのともぬる社
よくふのふくはもろ一名やそるあつその浦にあゆのりか火

保雅賢

洗はあつその浦よりあつたつる月を今にあきれそそ
徒まをうらりそあひきるあつその浦にあゆのりか火

保雅賢

阿波の社

保雅賢

阿波の社

保雅賢

阿波の神祠

阿波の神祠の神

徒まをうらりそあひきるあつその浦にあゆのりか火

保雅賢

阿波の神祠

阿波の杜のり又粟殿社と書次守傍正法禪とり

保雅賢

社傍説ふ三糸神伊弉諾伊弉册の二尊とり土人云むりより産子の人々
粟殿と称し五穀及び瓜菰子根の類初産に神祠の側み籠橋のりあゆ

より其初生とて後瓜の類に神祠の側み籠橋のりあゆ
また其初生とて後瓜の類に神祠の側み籠橋のりあゆ

國中の人の中贈るまんとり
藤といふ女あり其ま奥別の方へ遠征す

反魂冢

阿波の東居社といふ名傍に縁くひたれ反魂の法と

果のくゆり慈傷し東居社といふ名傍に縁くひたれ反魂の法と

豊秀吉公出陣古蹟

尾州海東郷上中村あり佐屋より岩原より廿町計

八月十八日豊大岡薨中村の法遊ありて群衆をよみ又加藤虎之助
は政の出生所といふ所の澤村下の中村に氏神八階宮と今ふかりて裔
より後浦ありとて又澤村佐藤其外尾州

出生の諸侯いかりふ古跡多しとて

異編日本傳曰

萬曆十九年十月九年天正率兵超入大明之時秀
吉答書曰朝鮮國王閣下雁書薰讀卷舒再
抑本朝雖為六十餘州比年諸國分離國綱

如修許憂年吾不己朝政攻依壯母予間廢
 日隣容者者朝脣雖廷氏則有年夢事伐世
 錄盟也乎在風國歷盛富無此必日蹟報禮
 領也予遠方俗家長事財不奇八輪鄙臣而
 納予入邦寸於之生洛足取異表入陋討不
 珍無大小中四隔古陽土既作聞懷小賊聽
 重它明島貴百山來壯貢大敵八中臣徒朝
 保只之在國餘海不麗萬下心風相也及政
 畱顯日海先州之滿莫倍大者四土雖異故
 不佳將中馳施遠百如十治自海日然域予
 宜名士者而帝一年今古撫然蒙日子遠不
 於率後入都超焉日矣育摧威光當嶋勝
 三臨進朝政直鬱也本百滅名所于悉威
 國軍筆有化入夕夫朝姓戰者及陀歸激
 而營者遠于大久人開備則其無胎掌
 已則不慮億明居生關際無何不之握四
 方祇可無萬國此十已孤不疑照時龜中
 物可作迎斯易乎世來獨勝才蓋悉按之

